

平成 21 年度事業実績報告書

平成 21 年度は、山寺芭蕉記念館の入館料が高校生・小中学生が無料に、最上義光歴史館の入館料は全て無料とする新しい料金体系によって 2 施設の運営を行うこととなった。

山寺芭蕉記念館では、初の試みとなる第 1 回山寺芭蕉記念館英語俳句大会を開催したが、初回ながら海外も含め 495 句もの投句があった。また、第 52 回全国俳句山寺大会では昨年を上回る 150 名の参加があった。一方、低年齢層でも美術を楽しめるよう企画した企画展「動物大集合」では 5,728 名の入館者があった。更に、3 回目を迎える市民企画展では地元 2 団体協力して企画した「山寺・我が家の宝物」が採択され、山寺に伝わる資料が初公開のものも含めて出品され、地元にとっても意義深い展示となった。

最上義光歴史館では、常設展示の中で「慶長出羽合戦 一対決!!最上義光 vs 直江兼続」を 7 月から 12 月まで展示して NHK 大河ドラマ「天地人」放送に関連しての相乗効果を狙うとともに郷土の歴史と文化の啓発を目指した。また、企画展「市民の宝モノ」は 2 回目を迎え、趣旨も市民に浸透して充実した展示品が集まり、幅広い層に関心を持たれる展示となった。

また、本年度は特に NHK 大河ドラマ「天地人」の放送もあり、山形の歴史にもスポットが当てられ、事業展開もそれを意識して行われた。入館者については、山寺芭蕉記念館は 13.7%の減少であったが、最上義光歴史館は 168.8%の入館者増があり、入館無料と「天地人」の効果が表れたと分析できる成果がみられた。また、それに伴い最上義光歴史館ボランティアの活動も活発に行われ、その館内説明も入館者から好評を博した。

その他、平成 21 年度山形県ふるさと雇用再生特別基金事業費補助金交付における嘱託職員の雇用によって両館に関わる解説等の英語訳作業が行われ、外国人来場者の利便の向上に資した。

1. 事業計画による主催事業について

山寺芭蕉記念館事業

(1) 展示事業

① 企画展「雛人形の歴史展」(平成 20 年度事業)

山形市内に伝わる江戸時代の雛人形を中心に展示し、日本文化の美を考え、物資物流や、当地域に影響を与えてきた文化伝播の事情と、芭蕉がふれた文化の一端を理解する一助とした。

- 開催期間 4月1日(水)～4月5日(日)(延5日間)
- 入館者数 335名

② 常設展

「芭蕉の生涯」「書画の美」「もののけで見る美術」「芭蕉とその周辺の人々」と題し、収蔵資料の中から展示を行った。

- 開催期間 4月8日(水)～7月12日(日)(延91日間)
- 入館者数 8,105名

③ 企画展「動物大集合 ―動物でみる美術、アートの中の動物たち―」

絵画や工芸品など、美術作品の中で表現された動物を鑑賞する機会をもうけ、これを通して美術に親しむための新たな入り口とし、芸術愛好者を増やし、市民文化にうるおいを与える一助とした。

- 開催期間 7月14日(火)～8月30日(日)(延48日間)
- 入館者数 5,728名
- ギャラリートーク 8月2日(日)
講 師 加藤千明氏(財山形美術館館長)
参加者 31名
- 8月8日(土)
講 師 相原一士(当館学芸員)
参加者 9名

④ 常設展

「芭蕉の生涯」「芭蕉周辺の人々」と題し、収蔵資料の中から展示を行う。「描かれた山寺と芭蕉」では収蔵資料と山寺地区等の所蔵者から絵画を借用し、展示を行った。

- 開催期間 9月1日(火)～12月6日(日)(延93日間)
- 入館者数 10,324名

⑤企画展「市民企画展」

市民の団体から発案された企画によって、本館の収蔵品と併せて市民の収蔵品を展示する。企画は募集の上、応募企画の中から選考した。

選考を行った結果、山寺文化保存会と山寺郷土研究会の「山寺・我が家の宝物展」とグループ野火の「造形と風雅 ー風と葉と蟬ー」を開催した。

○開催期間 12月8日(火)～1月24日(日) (延36日間)

○入館者数 696名

⑥常設展

「芭蕉の生涯」と題し、収蔵資料の中から展示を行った。

○開催期間 1月26日(火)～2月14日(日) (延18日間)

○入館者数 377名

⑦企画展「お雛さまの美 ー桃の節句の美とその歴史ー」

山形市内に伝わる江戸時代の雛人形を中心に展示し、雛飾り発達の歴史とその美を紹介することにより、日本文化の美を考える一助とした。

○開催期間 2月17日(水)～3月31日(日) (延43日間) [会期は4月11日まで]

○入館者数 2,455名

○ギャラリートーク 3月7日(日)

講師 相原一士(当館学芸員) 参加者 25名

○記念講演会「雛祭り日本人のこころ」 3月14日(日)

講師 安部英子氏(お雛さま研究家) 参加者 28名

(2)普及啓発事業

①第52回全国俳句山寺大会

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催した。

○日 時 7月12日(日)

○選 者 蓬田紀枝子氏、新谷ひろし氏、安原 葉氏、松浦俊介氏、
阿部月山子氏、三井量光氏、黒沢道子氏、矢萩天崖氏

○事前投句 1,175句

○大会参加者 150名

②第1回山寺芭蕉記念館英語俳句大会

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とした。

○審査委員 飯島武久氏(国際日本文化研究会会長)、
大場 登(当財団理事長)、サミュエル・ダグ氏(山形市ALT)

○投句数 495句(315名)

③第19回山寺芭蕉記念館 文化セミナー

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかる。
今回は、「宗教と日本文化」をテーマに、宗教の深層を検証することによって、
宗教が現代の社会に何を寄与できるのか模索した。

○開催日時・内容等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| 8月1日(土) | 講師 | 松尾剛次氏(山形大学教授) |
| | 演題 | 「日本仏教と文化」 |
| | 参加者 | 113名 |
| 8月9日(日) | 講師 | 山折哲雄氏(宗教学者) |
| | 演題 | 「宗教と日本文化」 |
| | 参加者 | 108名 |
| 8月22日(土) | 講師 | 宇田川一夫氏(東北福祉大学大学院教授) |
| | 演題 | 「現代における宗教と心理学」 |
| | 参加者 | 70名 |
| 8月30日(日) | 講師 | 山本陽史氏(山形大学大学院教授) |
| | 演題 | 「戯作の中の神仏たち」 |
| | 参加者 | 60名 |

④第3回サポーター講座「芭蕉と博物館の学び方」

市民文化の向上と山寺芭蕉記念館での市民活動の活性化を目指す講座を開催した。受講者から解説ボランティアの育成をはかった。

○参加者 32名(5回連続講座)

○開催日時・内容等

- | | | |
|-----------|----|---------------------|
| 10月29日(木) | 講師 | 斎藤員郎氏(山形大学名誉教授) |
| | 演題 | 「人と自然・『奥の細道』に学ぶ」 |
| 11月5日(木) | 講師 | 武田菜美氏(山形県俳人協会幹事) |
| | 演題 | 「初心者のための俳句講座」 |
| 11月11日(水) | 講師 | 山本陽史氏(山形大学大学院教授) |
| | 演題 | 「『おくのほそ道』を読む1」 |
| 11月19日(木) | 講師 | 山本陽史氏(山形大学大学院教授) |
| | 演題 | 「『おくのほそ道』を読む2」 |
| 11月26日(木) | 講師 | 相原一士(当館学芸員) |
| | 演題 | 「芭蕉と山寺芭蕉記念館収蔵品について」 |

⑤第40回芭蕉忌俳句大会

俳句の普及と振興をはかるため、山形県芸術文化会議、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で、芭蕉を偲び句会を開催した。

○日時 10月31日(土)

○選者 松浦俊介氏、阿部月山子氏、三井量光氏、鈴木正子氏、
舟越とみ子氏、黒坂重政氏

- 事前投句 484 句
- 大会参加者 54 名

⑥芭蕉を偲んで投句しよう〔年3回〕

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、年3回に分けて投句選を行った。

- 期 間 4月から7月迄、8月から9月迄、10月から3月迄
- 投句数
 - 及び選者 4月から7月 86 句 選者 鈴木正子氏（山形県俳人協会幹事長）
 - 8月から9月 86 句 選者 松浦俊介氏（山形県俳人協会会長）
 - 10月から3月 70 句 選者 庄司りつこ氏（山形県俳人協会名誉会員）

⑦山寺芭蕉記念館子ども俳句道場

、「芭蕉を偲んで投句しよう」の小中学生版とし実施した。俳句を通して松尾芭蕉や山寺、山寺芭蕉記念館への理解を深める機会とした。

- 期 間 通年
- 投句数 76 句
- 選 者 武田菜美氏（山形県俳人協会常任幹事）

⑧ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信した。

- アクセス件数

21年度(平成21年4月1日～平成22年3月31日)のアクセス件数

回 数	157,059件(1日/430件)
人 数	40,865件(1日/112件)

⑨『芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の公開を行ない山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てた。

(3)茶席事業

①「市民茶会」開席

山形茶道宝紅会の協力により、抹茶又は煎茶の呈茶を行い、茶道文化の啓蒙普及を図るため実施した。

- 期 間 4月～11月の土曜日、日曜日
- 実施状況

実施月	日 数	利用者数 (人)
4 月	4	2 7 8
5 月	4	2 0 2
6 月	3	2 5 2
7 月	4	2 7 8
8 月	1	8 4
9 月	3	1 8 1
10 月	7	4 6 0
11 月	2	1 7 4
合 計	2 8	1, 9 0 9 (△36.7)
前年度	5 1	3, 1 6 9

() 内は前年度同期比 (%)

②「茶房 芭蕉堂」開席

抹茶の呈茶を常時行い、茶道文化に親しむ一助とするため実施した。
12月から3月までは受付ロビーで開席。

○期 間 4月～3月（市民茶会開催日等除く）

○実施状況

実施月	日 数	利用者数 (人)
4 月	1 9	1 7 6
5 月	2 4	2 3 7
6 月	2 1	2 9 7
7 月	2 4	2 0 4
8 月	2 8	4 0 4
9 月	2 1	2 9 7
10 月	1 9	3 6 1
11 月	2 5	3 1 6
12 月	2 4	1 6
1 月	2 4	1 8
2 月	2 4	3 7
3 月	3 1	4 8
合 計	2 8 4	2, 4 1 1 (△9.29)
前年度	2 7 1	2, 6 5 8

() 内は前年度同期比 (%)

③山寺感謝の茶会

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行った。

- 開催日 11月23日(月・祝)
- 場 所 山寺芭蕉記念館 立礼席
- 参加者 61名

最上義光歴史館事業

(1)展示事業

①企画展「市民の宝モノ 2009」(前年度継続事業)

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館の展示室に展示し、広く一般に公開する市民参加型の展覧会として開催。出品された「宝モノ」にまつわるユニークなエピソードなどを紹介した。出品者 17 名／出品件数 28 件

○期 間 4月1日(水)から4月5日(日) (延日数5日)

○入館者数 734名

②常設展示Ⅰ「鐵[kurogane]の美 2009 ～郷土の刀工たち～」

歴史館の収蔵刀剣を中心に、本県ゆかりの刀鍛冶(室町時代から現代まで)の作品 14 振の展示を行い、郷土の刀工を紹介した。なお、山形ライオンズクラブより山形市に寄贈になった上林恒平氏作の刀もあわせて公開した。

○期 間 4月7日(火)から7月5日(日) (延日数は88日間)

○入館者数 18,083名

③特別公開「坂紀伊守像」

最上義光の重臣で長谷堂城主・坂紀伊守光秀の肖像画(山形県指定文化財山形市・清源寺蔵)を、その命日(4月26日)にちなんで特別公開した。

○期 間 4月14日(火)から5月10日(日) (延日数は26日間)

④常設展示Ⅱ「慶長出羽合戦～対決!!最上義光 vs 直江兼続～」

慶長出羽合戦で戦った最上義光(最上軍)と直江兼続(上杉軍)にちなんで、最上家と上杉家のゆかりの資料の展示公開を行い、大河ドラマを盛り上げるとともに、郷土の歴史と文化の啓発する一助とした。

○期 間 7月7日(火)から12月6日(月) (延日数は153日間)

○入館者数 28,488名

⑤常設展示Ⅲ「屏風絵の美」

歴史館の収蔵資料から、日本の四季を感じさせる屏風と山形城の杉板戸を公開。幸福のイナゴ伝説がある「すすき図屏風」(市文)、山形城主秋元家伝来の狩野玄也作「四季花鳥図屏風」(県文)、伏見城から移築されたと推定される山形城の杉板戸を特別公開した。

○期 間 12月8日(火)から1月11日(月) (延日数は25日間)

○入館者数 1,232名

⑥企画展「市民の宝モノ 2010」 [継続企画]

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館の展示室に展示し、

広く一般に公開する市民参加型の展覧会として開催。出品された「宝モノ」にまつわるユニークなエピソードなどを紹介した。出品者 18 名／出品件数 33 件

○期 間 1 月 13 日(火)から 3 月 31 日(日) (延日数は 66 日間)

○入館者数 4,147 名

(展示は 4 月 11 日まで)

(2)教育普及事業

①歴史講座「日本刀入門講座」

初心者を対象として、日本刀の歴史や魅力、鑑賞の基礎的知識など、わかりやすい内容の講座にし、広く一般に、伝統的な日本の文化と歴史について理解を深めるために開催した。

○講 師 布施幸一(当館館長)

○日時と内容、受講者(定員 40 名)

2 月 13 日(土)「日本刀の歴史」(受講者 35 名)

2 月 20 日(土)「日本刀鑑賞の手引き」(受講者 37 名)

2 月 27 日(土)「絵画資料にみる日本刀」(受講者 35 名)

3 月 6 日(土)「武将と日本刀」(受講者 33 名)

3 月 13 日(土)「郷土の刀工」(受講者 35 名)

毎回 13 時 30 分から(約 2 時間)

○会 場 中央公民館 第 3 研修室

②歴史講座(最上義光歴史館サポーター養成講座「義光塾」)

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、郷土史に対する知識と理解を深めるとともに、歴史館サポーター(ボランティア)の養成とスキルアップを図った。

○日時と内容、講師、受講者

2 月 1 日(月)「亀ヶ崎城の発掘調査について」

高桑登先生(財団法人山形県埋蔵文化財センター調査研究員)受講者 24 名

2 月 8 日(月)「三方国替～幕府の謀略と苛酷な報復～」

佐竹迪先生(藤沢周平・司馬遼太郎文学研究会代表)受講者 26 名

2 月 22 日(月)「戦国時代の城郭と合戦の様相」

伊藤清郎先生(山形大学教授)受講者 27 名

毎回 13 時 30 分から(約 2 時間)

○会 場 中央公民館 第 3 研修室

③こども講座

小学生を対象として、歴史や伝統文化をテーマに実際に体験し、楽しみながら歴史に対する興味と理解を深めるために開催した。

○日時と内容、講師、参加者(各回定員 20 名)

2月 28 日(日)「香袋を作ってみよう!!」
布で「匂い袋」を作ってみる
講師/棚井美果(当館嘱託職員) 受講者 10 名

3月 7 日(日)「兵糧丸を作ってみよう!!」
合戦時の非常食「兵糧丸」を作ってみる
講師/内野広一(当館臨時職員) 受講者 20 名

3月 14 日(日)「銘切りに挑戦してみよう!!」
刀を作る工程の「銘切り」に挑戦する
講師/高橋恒巖氏(刀工) 受講者 22 名

毎回 9 時 30 分から 11 時 30 分まで(約 2 時間)

○会 場 最上義光歴史館 研修室

(3)調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

(4)その他の事業

① I Tに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。

○一般ページのアクセス件数

回数	469,302 件 (1 日/1,286 件)
人数	119,184 件 (1 日/327 件)

○こどもページのアクセス件数

回数	18,492 件 (1 日/51 件)
人数	6,572 件 (1 日/18 件)

○『天地人「直江兼続 VS 最上義光」決戦！出羽の関ヶ原』のアクセス件数

回数	364,162 件 (1 日/998 件)
人数	83,138 件 (1 日/228 件)

受託事業

(1) 外国語による展示解説等整備事業

山寺芭蕉記念館及び最上義光歴史館来館者への外国語による施設案内誘導表示・展示解説キャプション等の作成を行った。(ふるさと雇用再生特別基金事業費補助事業)

具体的な内容としては山形市在住の米国人女性1名を採用し、英語解説キャプション約70枚の作成、英語圏等の入館者の案内解説、第1回山寺芭蕉記念館英語俳句大会等の業務を行った。